

東京都情報公開条例の非開示情報に当たる希少種の位置情報については、掲載していません。

連光寺・若葉台里山保全地域の区域の拡張について (説明書)

令和2年8月6日

東京都環境局自然環境部

目 次

1 連光寺・若葉台里山保全地域の概要	1
1.1 概要	1
1.2 保全地域の位置	1
1.3 地形的特徴	1
2 連光寺・若葉台里山保全地域の自然環境	2
2.1 植生	2
2.2 生物相	4
3 拡張区域の概要	7
3.1 概要	7
3.2 拡張する理由	7

※本資料内の地形図を元にした図面は、特段の記載がない限り、国土地理院長の承認(平19関公第377号)を得て作成した東京都地形図(S=1:2, 500)を使用(2都市基交第472号)して作成したものである。無断複製を禁ずる。

1 連光寺・若葉台里山保全地域の概要

1.1 概要

- ・保全地域名:連光寺・若葉台里山保全地域
- ・所在地:多摩市連光寺六丁目、稲城市若葉台四丁目
- ・指定年月日:平成 26 年 11 月 14 日
- ・指定面積:32,923 m²

1.2 保全地域の位置

- ・連光寺・若葉台里山保全地域は、多摩市と稲城市にまたがる地域で、多摩丘陵の北部に位置し、多摩川の支流谷戸川水系に含まれる。自然地形の残存する谷戸は小規模であるが、周辺の緑地と連続したまとまりのある緑地の一部を構成している。

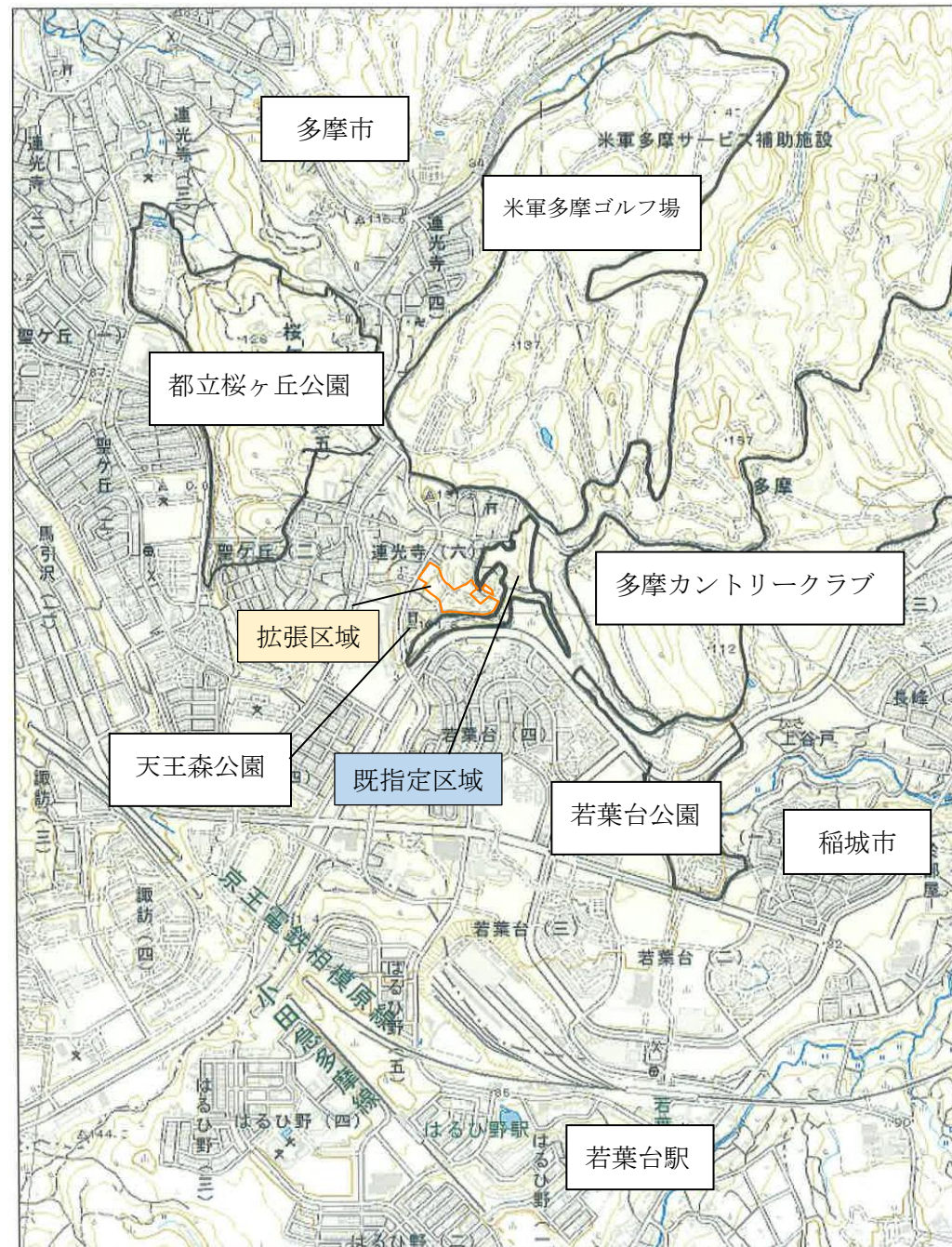


図 1.2-1 保全地域位置図

1.3 地形的特徴

- ・多摩市のほとんどが、人工改変地となっているなかで、連光寺・若葉台里山保全地域は、丘陵地地形が残存する。また、多摩市内で標高が最も高い天王森公園付近(海拔 160 メートル前後)に近い場所(海拔 130 メートル前後)に位置する。
- ・地質は、ローム層、御殿峠礫層、稲城層の上に位置し、地下水位が高い場所となっている。

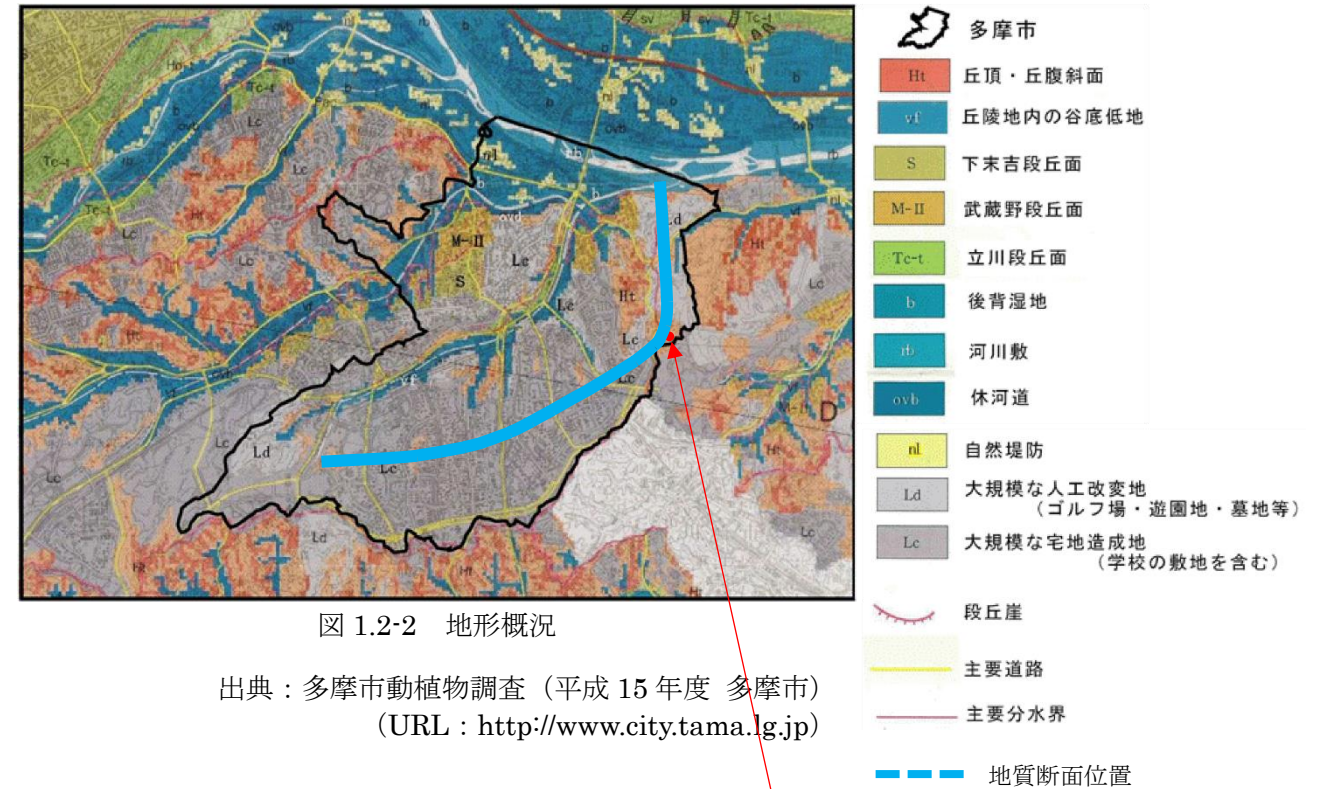


図 1.2-2 地形概況

出典：多摩市動植物調査（平成 15 年度 多摩市）
(URL : <http://www.city.tama.lg.jp>)

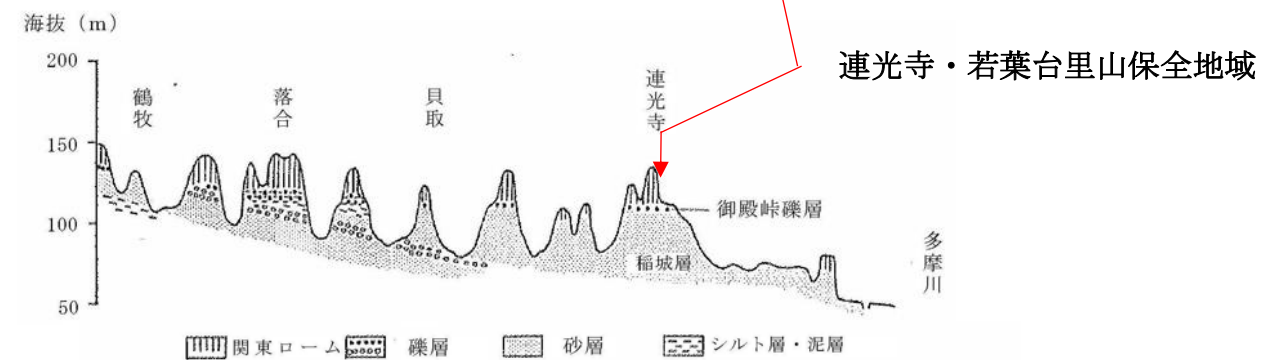


図 1.2-3 地質断面概況

出典：多摩市動植物調査（平成 15 年度 多摩市）
(URL : <http://www.city.tama.lg.jp>)

出典：国土地理院発行2.5万分の1地形図

2 連光寺・若葉台里山保全地域の自然環境

2.1 植生

2.1.1 調査方法

- 東京都が平成 25 年度に実施した「平成 25 年度多摩連光寺自然環境調査委託報告書 平成 26 年 3 月 東京都環境局自然環境部緑環境課」を参考とし、補足調査(令和元年 12 月 24 日)及び活動しているボランティア団体へのヒアリング(令和元年 12 月 27 日)の内容を加えて整理した。

2.1.2 調査結果

- 谷部の湿地では、指定時に比べてヨシ群落、キショウブ群落が増大し、ガマ群落、エゾノサヤマガサ群落が縮小している。
- 湿地下流部の荒地雑草群落も増大し、その中に、マダケの優占する竹林が小面積で分布する。
- ボランティア団体によって指定時にはなかった水田環境が形成されている。
- 湿地周辺の竹林等が一部伐採され、谷部の中流部は、明るい環境となっている。
- 拡張区域では、指定時に畑地であった場所が、休耕地となり、外来雑草群落や荒地雑草群落、ススキ群落などの草地になっている。
- 拡張区域に含まれるマダケハチク林も指定時に比べ増大している。
- 拡張区域は、竹林、外来雑草群落、荒地雑草群落、クズ群落、畑、果樹園等が含まれる。

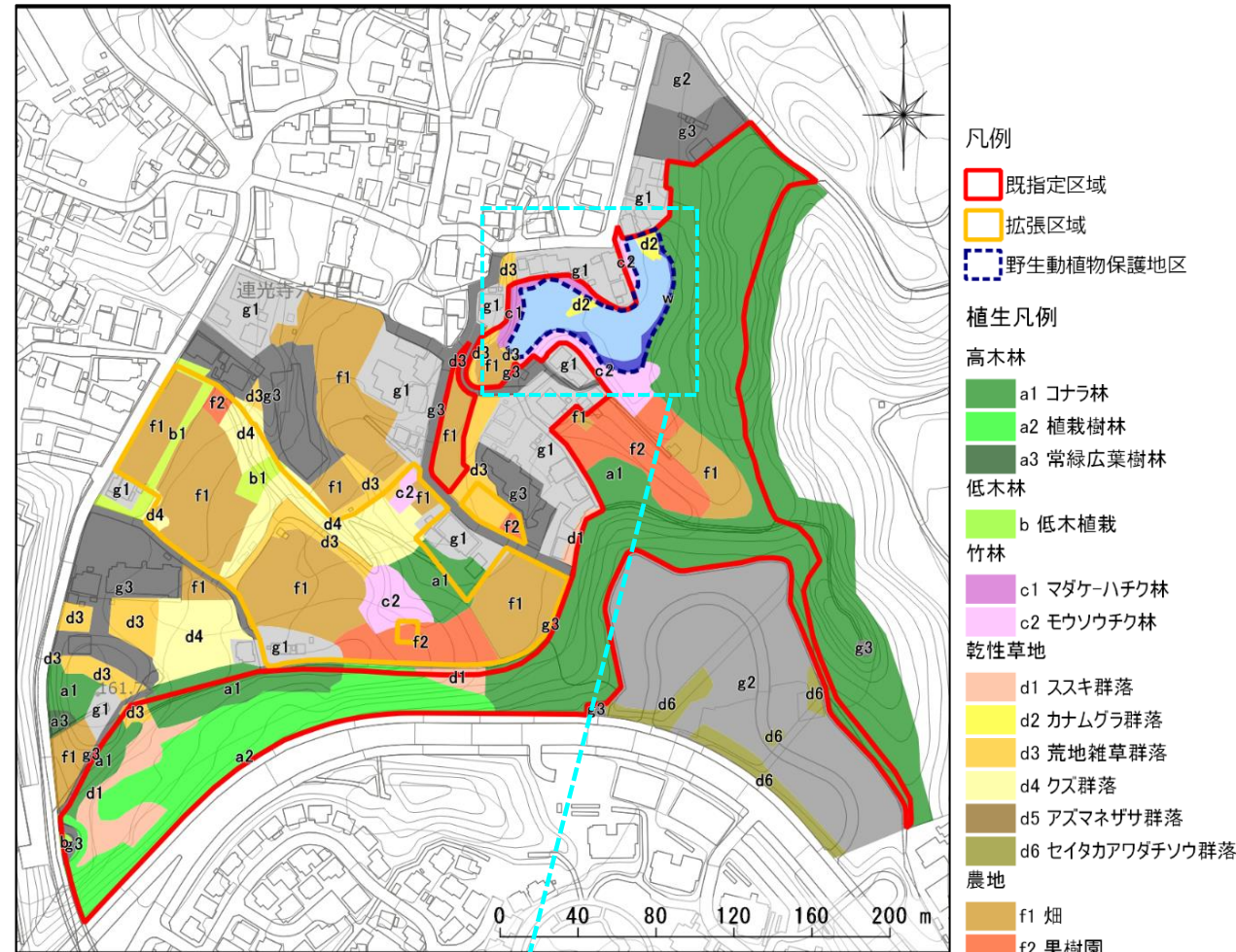


図 2.1-1 指定時の植生図
(平成 25 年当時)

野生動植物保護地区の植生図

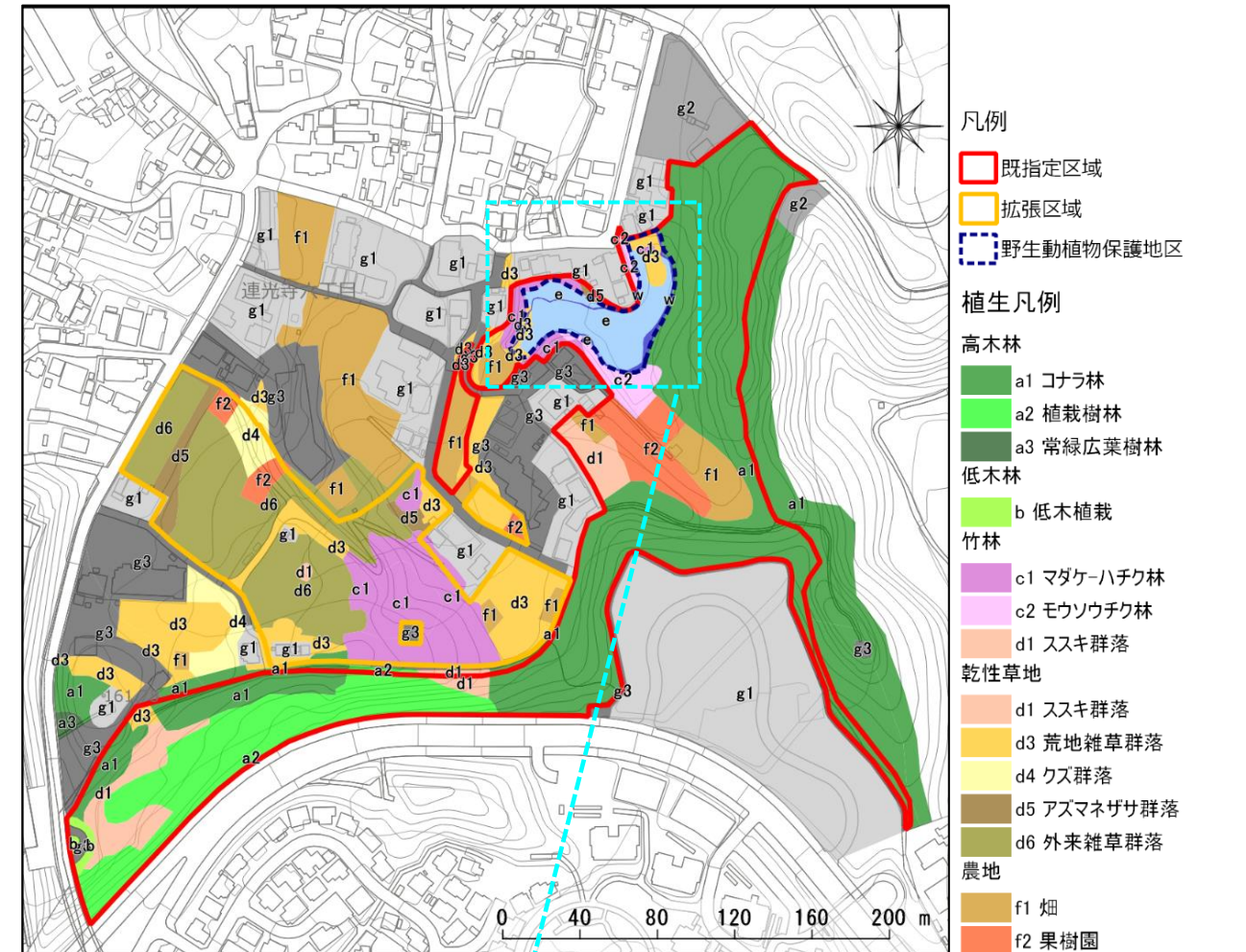



図 2.1-2 現存植生図
(令和元年)

野生動植物保護地区の植生図

表 2.1-1 主な植物群落の概要

大区分	細区分	特徴	写真	
a	高木林	a1 コナラ林 (落葉広葉樹林)	保全地域東部の斜面に広く分布する。主にコナラ、イヌシデ、ヤマザクラなどが高木層に優占し、低木層にヒサカキ、アオキなどの常緑広葉樹が密に生育する。	
		a2 植栽樹林	保全地域南西部の道路法面に広く分布する。コナラ、ヤマザクラなどの当該地に生育する高木がまばらに植栽されている。	
		a3 常緑広葉樹林	保全地域外天王森公園内の八坂神社の多摩市指定天然記念物のスダジイを中心として小面積で分布する。	
b	低木林	b 低木植栽	天王森公園付近に小面積で分布する。	
c	竹林	c1 竹林 (マダケ・ハチク等)	マダケやハチクが優占する竹林。かつて果樹園や樹林地などの植生だった場所にマダケやハチクが侵入し拡大してできたと考えられる。キッコウチク、オカメザサの植栽地も含む。	
		c2 竹林 (モウソウチク)	モウソウチクが優占する竹林。一部にケヤキやシラカシが混生する場所も見られる。	
d	乾性草地	d1 ススキ群落	保全地域南西部の道路法面に分布する。	
		d3 荒地雑草群落	保全地域の谷部下流の乾燥化した谷底面に分布し、拡大傾向にある。その他、拡張区域の休耕地に分布する。	
		d4 クズ群落	拡張区域の休耕地の一部に小面積で分布する。	

大区分	細区分	特徴	写真	
d	乾性草地	d5 アズマネザサ群落	保全地域の谷部への入口に小面積で分布する。	
		d6 外来雑草群落	拡張区域の休耕地に広く分布する。ヒメムカシヨモギ、オオブタクサ、セイタカアワダチソウなどの外来種が生育する。	
e	湿性草地	e1 ヨシ群落	保全地域谷底部の上流側にまとまって分布する抽水植物群落。ヨシが優占し、ガマ、ミゾソバ、イヌコリヤナギなどが混生している。	
		e2 ガマ群落	保全地域谷底部の上流側に分布する抽水植物群落。ガマが優占するが、ヨシ群落の拡大により減少傾向を示している。	
		e3 キショウブ群落	保全地域谷底部の中央部を中心に最も広く分布する抽水植物群落。キショウブが優占し、ミゾソバなどが混生する。全体に増加傾向にある。	
		e4 ミゾソバ群落	保全地域谷底部の中央から下流部を中心に広く分布する低茎の湿生植物群落で、ミゾソバの他、草丈の低いイネ科、セリ、アキノウナギツカミ等が優占する。	
		e5 エゾノサヤヌカグサ群落	保全地域谷底部の中央の日当たりの良い場所にまとまって分布するが、減少傾向にある。	
e6 セリ群落	保全地域谷底部の日当たりの悪い水路沿いに疎生する。落葉が堆積し、植生はほとんど見られない場所が多い。			
e7 水田環境	保全地域上流部に、水田環境を主な生息生育地とする生物のために形成された環境			

2.2 生物相

2.2.1 調査方法

- 東京都が平成25年度に実施した「平成25年度多摩連光寺自然環境調査委託報告書 平成26年3月 東京都環境局自然環境部緑環境課」を参考とし、補足調査(令和元年12月23、24日)及びボランティア団体へのヒアリング(令和元年12月27日)の内容を加えて整理した。

2.2.2 調査結果

(1) 植物相

- 100科419種が記録され、このうち、注目すべき種として7科14種が確認されている。

表 2.2-1 注目すべき植物

科名	種名	注目すべき種		
		1	2	3
イラクサ	ミズ		NT	
ウマノスズクサ	タマノカンアオイ	VU	VU	
イチヤクソウ	イチヤクソウ			○
ユリ	アマドコロ		NT	
	ヤマジノホトギス		NT	
ヒガンバナ	キツネノカミソリ		NT	
イネ	エゾノサヤヌカグサ		NT	
ラン	ギンラン		VU	
	キンラン	VU	VU	
	ササバギンラン		NT	
	サイハイラン			○
	シュンラン			○
	コ克蘭		NT	
	オオバノトンボソウ			○
7科	14種	2種	10種	4種

注目すべき種・選定根拠

- 「第4次レッドリスト」(環境省、平成24年)の掲載種
EX:絶滅種、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧I類、CR:絶滅危惧IA類、EN:絶滅危惧IB類
VU:絶滅危惧II類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、LP:絶滅のおそれのある地域個体群
- 「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト～2013年版」(東京都、平成25年)の掲載種
EX:絶滅種、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧I類、CR:絶滅危惧IA類、EN:絶滅危惧IB類
VU:絶滅危惧II類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、
- 地元で観察されている方から指摘された、この地域で注目すべき種類・文献資料による注目すべき種

(2) 動物相

- これまでの確認種は、哺乳類4目6科6種、鳥類7目21科32種、爬虫類1目2科2種、両生類1目3科3種、魚類1目1科1種、昆虫類22目200科757種、貝類3目17科34種、底生動物2門3綱3目3科3種である。
- このうち注目すべき種として、表2.2-2に示す鳥類9種、爬虫類2種、両生類3種、貝類6種、昆虫類18種、魚類1種、底生動物3種が確認されている。

表 2.2-2 注目すべき動物

◆鳥類

目名	科名	種名	注目すべき種		
			1	2	3
カッコウ	カッコウ	ホトトギス		NT	
タカ	タカ	トビ		NT	
タカ	タカ	ノスリ		VU	
キツツキ	キツツキ	アオゲラ		NT	
ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ		VU	
スズメ	モズ	モズ		NT	
スズメ	ウグイス	ウグイス		NT	
スズメ	ウグイス	ヤブサメ		VU	
スズメ	ウグイス	オオヨシキリ		VU	
5目	6科	9種	0種	9種	0種

◆爬虫類

有鱗目	トカゲ	ヒガシニホントカゲ		VU	
有鱗目	カナヘビ	ニホンカナヘビ		NT	
1目	2科	2種	0種	2種	0種

◆両生類

無尾目	アマガエル	ニホンアマガエル		VU	
無尾目	アカガエル	ヤマアカガエル		EN	
無尾目	アオガエル	シュレーゲルアオガエル		VU	
1目	3科	3種	0種	3種	0種

◆貝類

モノアラガイ	モノアラガイ	コシダカヒモノアラガイ	DD		
モノアラガイ	ヒラマキガイ	ミズコハクガイ	VU	CR+EN	
マイマイ	キバサナギガイ	ナタネキバサナギガイ	VU	VU	
マイマイ	キバサナギガイ	キバサナギガイ	CR+EN	CR+EN	
マイマイ	ベッコウマイマイ	ヒメハリマキビ	NT	NT	
マイマイ	ベッコウマイマイ	オオウエキビ	DD	NT	
2目	4科	6種	6種	5種	0種

- 「第4次レッドリスト」(環境省、平成24年)の掲載種
EX:絶滅種、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧I類、VU:絶滅危惧II類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、
- 「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト～2013年版」(東京都、平成25年)の掲載種
EX:絶滅種、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧I類、VU:絶滅危惧II類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、
*1 南多摩では掲載されていないが、本土部でNT:準絶滅危惧
*2 留意種

3: 地元で観察されている方から指摘された、この地域で注目すべき種類・文献資料による注目すべき種

◆昆虫類

目名	科名	種名	注目すべき種		
			1	2	3
トンボ	トンボ	ヒメアカネ		NT	
トンボ	トンボ	シオヤトンボ		*1	
バッタ	コオロギ	クマスズムシ		DD	
バッタ	バッタ	ショウリョウバッタモドキ		VU	
バッタ	バッタ	クルマバッタ		CR	
コウチュウ	オサムシ	アカガネアオゴミムシ		NT	
コウチュウ	クワガタムシ	ヒラタクワガタ		NT	
コウチュウ	ジョウカイボン	キイロジョウカイ			○
コウチュウ	ホタル	ヘイケボタル		NT	
コウチュウ	ホタル	スジグロボタル			○
コウチュウ	カミキリムシ	ノコギリカミキリ		*1	
コウチュウ	カミキリムシ	ツマグロハナカミキリ		*1	
コウチュウ	カミキリムシ	ミヤマカミキリ		*1	
コウチュウ	カミキリムシ	シロスジカミキリ		NT	
ハチ	アリ	トゲアリ		NT	
ハチ	スズメバチ	モンスズメバチ		DD	
ハチ	コシブトハナバチ	ルリモンハナバチ		DD	
ハエ	ガガンボ	ミカドガガンボ			*2
5目	12科	18種	3種	13種	2種

◆魚類

コイ	ドジョウ	ホトケドジョウ	EN	VU	○
1目	1科	1種	0種	0種	1種

◆底生動物

マルスダレガイ	マメシジミ	マメシジミ属		DD	
エビ	サワガニ	サワガニ		*2	
トンボ	サナエトンボ	ヤマサナエ		VU	
3目	3科	3種	0種	3種	0種

- CR:絶滅危惧IA類、EN:絶滅危惧IB類
LP:絶滅のおそれのある地域個体群

(3) 野生動植物保護地区の概要

・ 野生動植物保護地区における「保護すべき野生動物」

① 両生類:ニホンアカガエル、ヤマアカガエル、シュレーゲルアオガエルその他の両生類全般(ただし外来種を除く。)

- ・ 両生類の繁殖地として、谷底上流部に水田環境が整備されている。
- ・ しかし、流入水の減少に伴い、水田の水も不安定な状態にある。
- ・ 畦畔は崩壊することがあり、カエル類の生息が減少傾向にある。(断面模式図A参照)

② 魚 類:ホトケドジョウ

- ・ 水田環境において、稚魚が多く確認されるようになり、ホトケドジョウの繁殖地となっている。(断面模式図A参照)
- ・ 成魚は、水路で確認されているが、土砂の流入により水路が浅くなっていることが、当種の生息環境を狭めている可能性がある。

③ 昆虫類:ヒメアカネ・ヘイケボタル

- ・ ヒメアカネが選好する樹林地が隣接するやや日陰地の湿地環境は、下流部の右岸側に見られる。(断面模式図D参照)
- ・ 谷底面の中央部が以前は薄暗かったが、今は明るくなり生息には不適地となっている。(断面模式図C参照)
- ・ ヘイケボタルについても、主要な発生地は下流部の薄暗い場所に限られる傾向にある。(断面模式図D参照)

④ 貝 類:キバサナギガイ、ナタネキバサナギガイ、ミズコハクガイ

- ・ 希少な貝類の生息は、指定当初に比べて減少傾向にある。(断面模式図B参照)

3 拡張区域の概要

3.1 概要

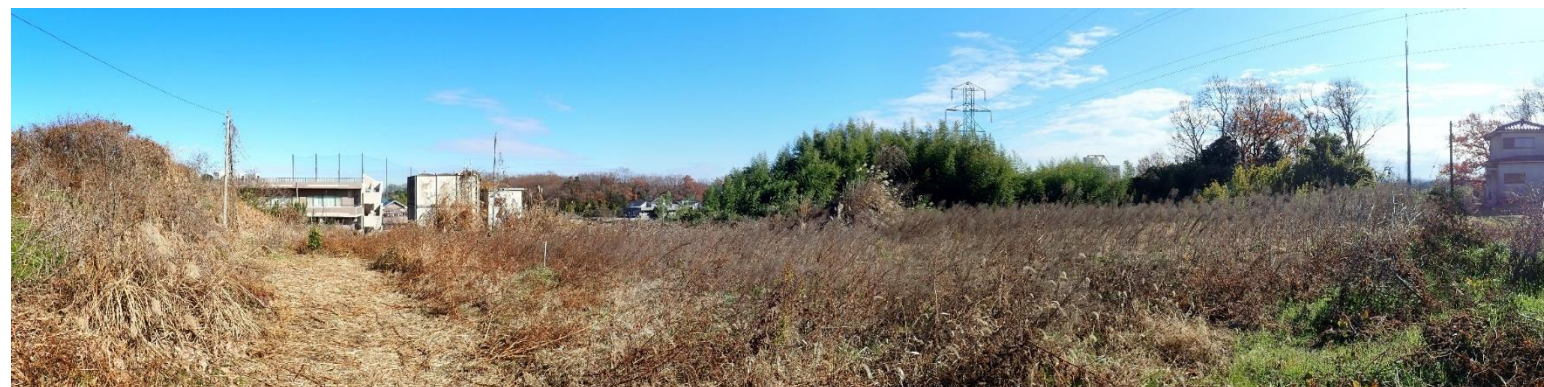
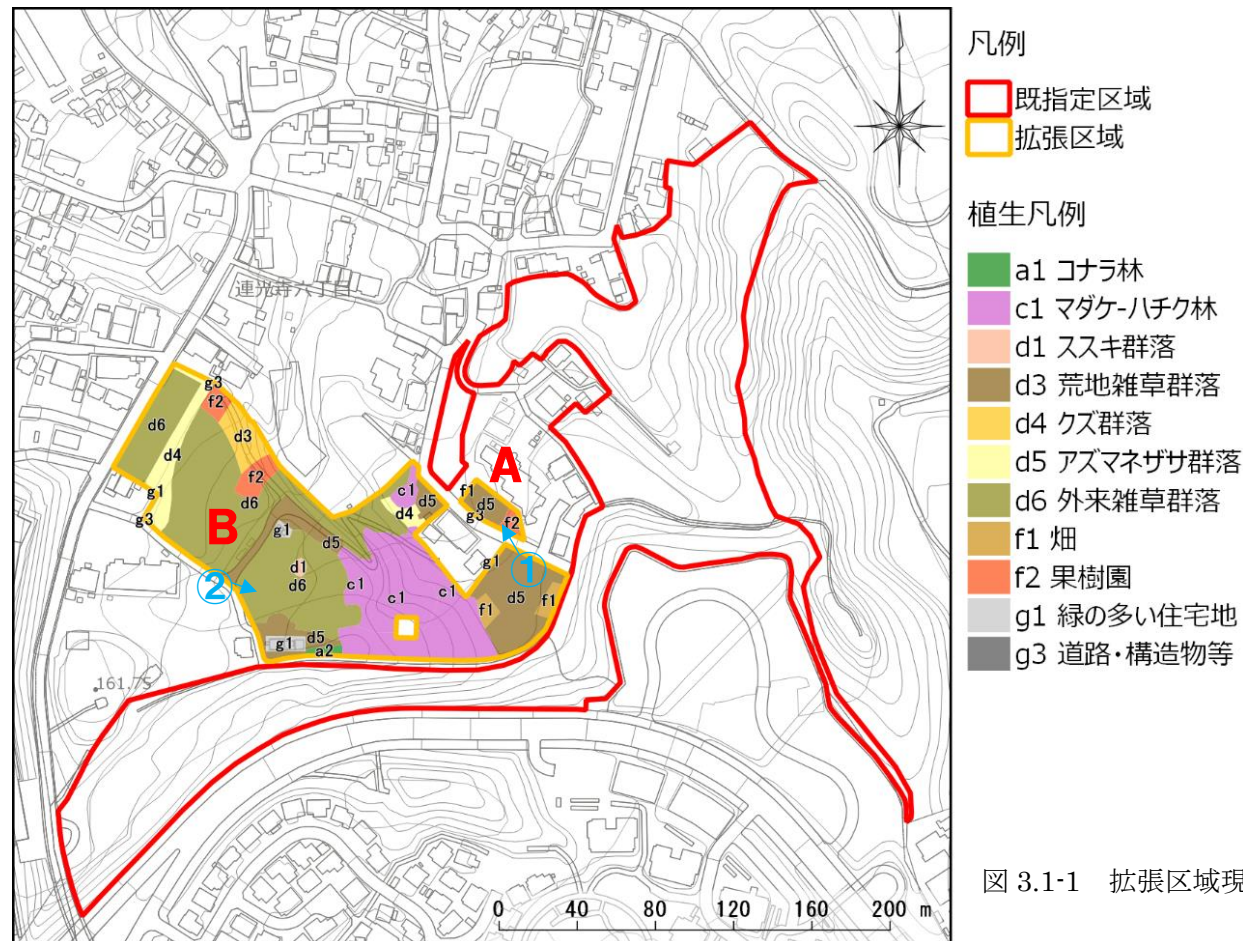
(1) 拡張区域

- A 多摩市連光寺六丁目 11 番 1 (479 m²)
- B 多摩市連光寺六丁目 12 番 3 外 15 筆 (15,892 m²)

- (2) 拡張する面積 16,371 m²
- (既指定区域 32,923 m²)
- (合計 49,294 m²)



① 拡張区域 A の生産緑地
(写真手前が対象地で奥の畑は区域外)



② 拡張区域 B の生産緑地の草地と遠方のマダケ-ハチク林

3.2 拡張する理由

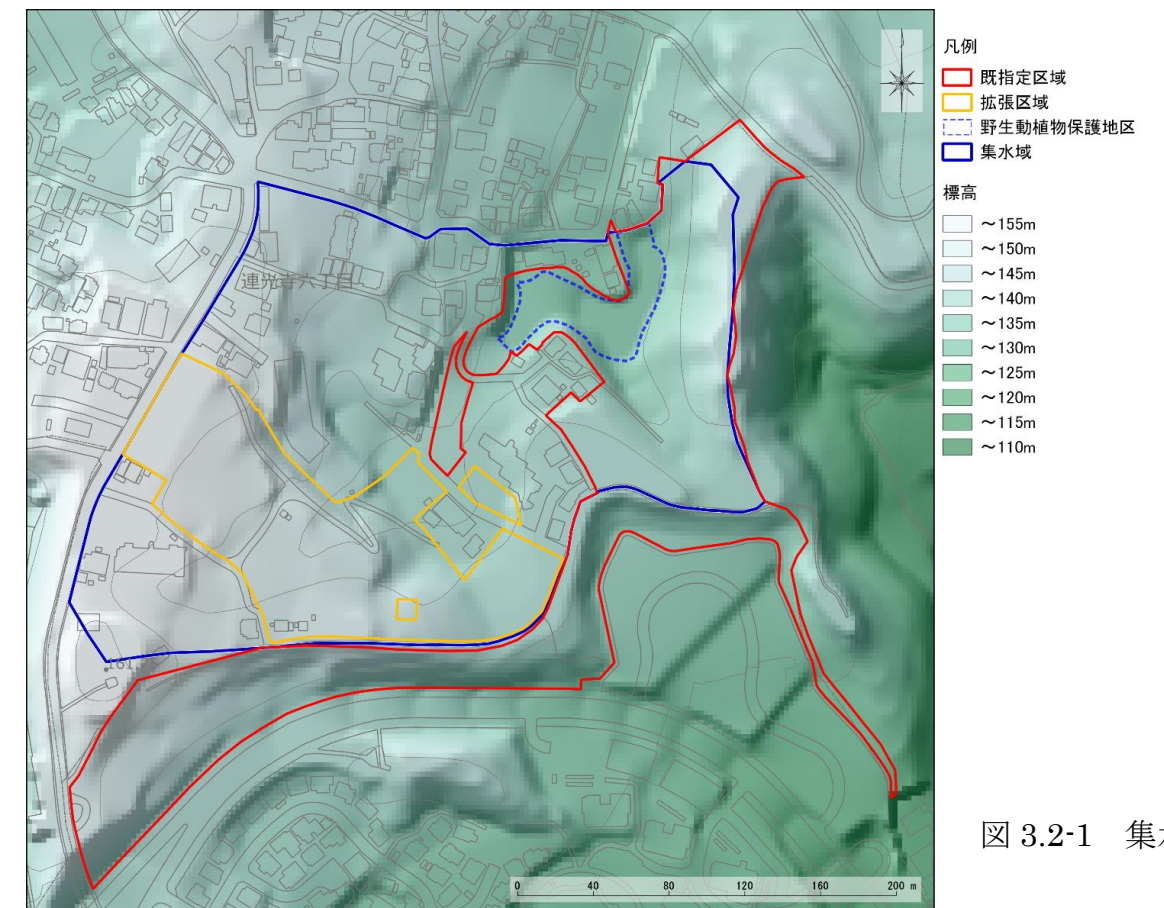
都市計画道路 3・1・6 号南多摩尾根幹線特例環境配慮書の作成に当たり都が意見を伺った筑波大学生命環境系(水文学)山中勤教授に、以下のとおりご意見を頂いた。

- 湿地の水は、雨水の直接流入と地下水流入(井戸から雨水管を通じて流入)が半々
- 集水域内の農地の住宅化等は、涵養量・地下水位の減少による湿地の乾燥化(特に雨量の少ない季節)や雨水の直接流入増大による水質悪化を招くおそれ
- 湿地の水量・水質維持には、集水域全体及び井戸周辺の自然地の保全が必要

【拡張理由】

今回拡張する区域は、既指定地の野生動植物保護地区の湿地環境の集水域に当たり、本保全地域指定の主要要因である湿地に生息・生育する希少な動植物(キバサナギガイ・ミズコハクガイ・ホトケドジョウ・ヘイケボタル等)の保全に欠かすことのできない水源涵養の役割を担っている区域である。

このため、保全地域に指定し、当該地の自然環境を将来にわたり保全する必要があると考える。



拡張区域は、比較的平坦地が多く、集水域の約 25% を占める。